

Fujizack ^{フジザック} 通信 23



これは、ふじざくら支援学校から保護者の方に情報提供する不定期通信です。
【第23号】令和4年3月8日 文責：校長

新型コロナ対応に明け暮れ、月日の流れが本当に速く感じた令和3年度でした。

気がつくと3月…。廊下には、この1年間の学習成果が掲示されていたり、卒業を祝う言葉が貼られていたりして、学年の終わりが近いことを実感します。振り返ると、令和3年度もコロナ禍による窮屈な教育環境でした。これまで本校で展開してきた学園祭でのダイナミックな表現活動、元気よく大声で合唱する音楽活動、みんなで作ってみんなで食べる調理活動、校外で社会生活を学ぶ体験活動…。なかなか十分には展開できませんでした。また、直接触れ合いながら個別に指導する着替え、食事、歯磨きなどの日常生活の指導についても、感染防止対策をとりながらでは難しさがありました。教員としては無力感やストレスを感じながらの日々でしたが、子どもたちの屈託のない笑顔にエネルギーをもらった1年だったと感じています。

令和4年度は、すぐそこまで来ています。就職、進学、進級の4月です。

3月の風に想いを乗せながら、桜のつぼみを膨らませていきましょう。



明日3月9日(水)には、小学部6年生8人、中学部3年生8人、高等部3年生14人の児童生徒が、それぞれの学部を卒業します。ここ数日は、卒業式の練習は佳境を迎え、私たち管理職もこれに参加しました。一人一人の児童生徒が、それぞれ自分らしい表情や仕草で真剣に取り組んでいる姿はすばらしく、たとえ動作を間違ったとしても微笑ましい限りです。明日も、それぞれの個性を発揮した卒業式になることを楽しみにしています。30人の皆さん、卒業おめでとうございます。

さて、先日放送されたテレビのワイドショーでは、【思い出に残っている卒業ソング】の1位が【3月9日】という調査結果を紹介していました。私とは何の関係性もないのですが、山梨出身のバンド【レミオロメン】の曲と言うことだけで、何だか嬉しくなりました。いつ頃だったか、「御坂の方の空き家(物置?)で練習しながら、メジャーデビューを待っているバンドがいる」という情報を耳にした記憶があります。彼らは、自分たちの夢の実現に向かって、きつと一直線に突き進んでいったのでしょうか。夢の実現ですね。

明日の3月9日は、まさに本校の卒業式です。

「3月の風に想いを乗せて 桜のつぼみは春へと続きます」

「新たな世界の入口に立ち 気付いたことは一人じゃないってこと」

卒業生のこれからの生活が素敵なものになることを、心から願っています。

ちなみに、私が卒業式で歌った歌は[巣立ちの歌]でした。うむ～懐かしい!

3月9日

私には、物への[こだわり]があります。車、バイク、カメラなどの自分の所有する物にはこだわります。そのひとつに、長年愛用している限定モデルの携帯電話があったのですが、つい最近スマホに替えました。携帯電話の使用期限が示されたため、泣く泣く買い換えたのです。古くても自分の[こだわり]に満足し、安定した生活だったのですが、今は心的にとっても不安定な状態です。

[こだわり]が強い児童生徒はたくさんいます。こだわることで、安定した生活が確保されるのかもしれませんが、しかし、不安定さを乗り越えた先の新たな自分を目指して、児童生徒は学習に取り組んでいます。

スマホ…私には使い方がよくわかりません。以前の携帯電話に戻りたいという衝動にかられます。でも、この不安定さを乗り越えると、きっと自分自身に新たな成長が訪れるのでしょうか。頑張ります… **Let's try!**